

第40回 うつのみやこども賞だより

令和5年度 10回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『ぼくらは星を見つけた』

戸森 しるこ／著 (講談社)



令和6年3月3日

読めは愉快だ
宇都宮
UTSUNOMIYA CITY LIBRARY

～読んだ本の感想より～

- 星とそらさんは血はつながっていないけれど、本当の家族みたいだった。友達にすすめたい。
- 最初から最後までずっと意外な展開が続いていて、とても面白い本でした。そらさんとシドの関係も面白かったです。
- 誰でもない視点から書かれていて、面白かった。
- お屋しきに住んでいる4人の関係が少しずつ分かり、シドの性格が変わっていくところがおもしろいと思いました。
- 星とシドが親子だったことがビックリした。星とシドとソラさんが、家族なのに他人のように接していたのが不思議でおもしろかった。
- なかなか誰にも心を開けなかったシドが岬くんに関心したのは、岬くんがとてもシドのことを気にかけてくれていて、シドはそれに気づいたからじゃないかなと思いました。

『エール！主人公なぼくら』 室賀 理江／作 (文研出版)

- 私も学校生活を思いっきり楽しみたい！と思った。友達にもすすめたい。
- 大地の「やれる。やる。いける。」という言葉が、大地にも、読んでいる私にも勇気になって、良いなと思った。
- 「だいじょうぶ。今日はやれる。やる。いける。」という毎朝のかけ声を私も作ってみたいと思った。
- 大地がどんどん成長し、思っていたこともちゃんと言葉にできるようになって良かった。
- 大地が最初は嫌だと思っていた応えん団も、最後は団長と共に成功できたのは、すごいと思う。

『かわらばん屋の娘』 森川 成美／作 (くもん出版)

- 鎖国やペリーなど、社会で習ったことが出てきたので、難しそうだと思ったけれど、分かりやすく楽しく読めたので、歴史が苦手な人でも読んでみてほしいと思った。
- お母さんが亡くなって、家事を1人でやっている吟はすごいし、そんな中でも浮世絵を一生けん命がんばっている姿がかっこよかった。
- 大切な人を2人も同時に亡くしてしまった時、すごく大変で悲しいだろうなと思ったし、それでも絶対に全てあきらめたりしないでがんばっているとすごかった。
- 途中で悠三郎と緑青が死んでしまうのはびっくりした。吟がその後、どうなったか気になる終わり方が良かった。

『人間になりたかった犬』 今西 乃子／作 (新日本出版社)

- うそは時間が過ぎていくとどんどん罪悪感になるということが分かった。
- 良い行いというのはどういうものなのだろう、と考えさせられるような物語でした。
- 春樹の悩みについてのシロの返事に感動しました。
- 人を助けるとは、ただ賛同することではなく、本当にやるべきことをやることだと思い、そうできるようになりたいと思った。